

## 2024年度 庶務報告

### 〔1〕 会員異動

2024年度末における会員総数は7,358名である。

・内訳：正会員7,020名、看護師会員15名、特別会員37名、学生会員34名、賛助会員142名、名誉会員110名。

・資格保有者：医師6,168名、歯科医師63名、薬剤師604名、鍼灸師427名。

2024年度中の新入会員は354名、退会者は607名であった。

### 〔2〕 会議

2024年度における会議は次のとおり行われた。

理事会 10回（内書面審議4回）

社員総会 1回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

### 〔3〕 各支部との交流

北海道支部会

2024年10月6日（日）

三谷和男会長講演

東北支部会

2024年10月27日（日）

関東甲信越支部会

2024年10月27日（日）

矢久保修嗣副会長講演

及川哲郎理事講演

東海支部会

2024年11月17日（日）

並木隆雄理事講演

北陸支部会

2024年10月6日（日）

関西支部会

2024年10月20日（日）

吉田麻美理事講演

中四国支部会

2024年10月13日（日）

九州支部会

2024年11月17日（日）

鍋島茂樹理事講演

山岡傳一郎理事講演

## 2024年度 事業報告

### 機関誌発行事業

〔1〕 編集委員会（担当理事：高山真、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：植田圭吾）

1. 2024年6月1日、6月21日、6月24日、10月2日、10月23日、12月23日、2025年3月3日、の計7回委員会（メール会議及びTKM Mtgを含む）を開催した。

2. 学会誌を下記の通り発行した。

第75巻第2号 2024年4月

第75巻別冊号 2024年5月

第75巻第3号 2024年7月

第75巻第4号 2024年10月

第76巻第1号 2025年1月

3. 2025年度からの学会誌完全電子化の準備と広報を進めた。

4. 『TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE』を下記のとおり発行した。

Volume11 Issue1 2024 2024年4月

Volume11 Issue2 2024

2024年8月

Volume11 Issue3 2024

2024年12月

5. TKMのvirtual issue更新を行った。
6. TKMのmost cited awardsの選定とweb上での表彰を行った。
7. TKMのcase report廃止と新たにclinical letterの新設を行った。

#### 調査研究事業

〔1〕健康保険担当委員会（担当理事：金倉洋一、副担当理事：玉嶋貞宏、委員長：大谷知穂）

1. 委員会は開催されなかった。
2. 第74回学術総会シンポジウムの演題・演者・座長を検討し、演者として衆議院議員で、日本の誇れる漢方を推進する議員連盟会長である田村憲久議員にご出席いただいた。
3. 日本漢方臨床医会との連携を強めることを模索した。
4. 第75回学術総会シンポジウム開催に向け、検討を行った。

〔2〕学術教育委員会（担当理事：佐藤寿一、副担当理事：高山真、委員長：網谷真理恵）

1. 2024年8月1日、11月19日の計2回委員会を開催した。
2. 情報発信事業
  - 1) 以下の学会ジョイントプログラムを実施した。
    - ① 第74回日本東洋医学会学術総会（2024/5/31～6/2：大阪）  
日本漢方医学教育協議会との合同シンポジウム  
「持続的な漢方医学教育への取り組みと課題」
    - ② 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2024/6/7～6/9：浜松）  
「東洋医学（漢方・鍼灸）の問題点にお答えします！第2弾」
    - ③ 第120回日本精神神経学会学術総会（2024/6/20～22：札幌）  
「精神科治療の引き出しが増やせる基本的な漢方処方～漢方専門医が考える精神科一般臨床で重宝する漢方薬～」
    - ④ 第30回日本病院総合診療医学会学術総会（2025/2/22～24：広島）  
「総合診療医が知っておきたい便秘」
  - 2) 以下の学会ジョイントプログラムの準備を行った。
    - ① 第75回日本東洋医学会学術総会（2025/6/6～6/8：東京）  
日本漢方医学教育協議会との合同シンポジウム
    - ② 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2025/6/20～6/22：札幌）  
「メンタルケアに用いる東洋医学（漢方薬・鍼灸）」
    - ③ 第57回日本医学教育学会学術大会（2025/7/25～27：秋田）  
「実践！漢方の診察方法の基本をロールプレイで体験しよう！」
    - ④ 第31回日本病院総合診療医学会学術総会（2025/9/27～28：姫路）  
「総合診療に役立つ！急性期の「水」（胸水、浮腫、腫脹など）に対する漢方治療」
3. 大学教育支援活動
  - 1) 以下を実施した。
    - ① 第74回日本東洋医学会学術総会（2024/5/31～6/2：大阪）  
「第5回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム」  
21大学82名の学生が参加した。研究会・サークル活動報告が10大学よりなされ、優秀賞を順天堂大学東洋医学研究会に付与した。
4. 会員数減少対策としての学生や若手医師に対するアプローチ
  - 1) 若手部会を立ち上げ、以下の活動をサポートした。
  - 2) 第75回日本東洋医学会学術総会（2025/6/6～6/8：東京）
    - ① 若手部会企画

「知っておきたい東洋医学最新論文10選！（日本東洋医学会・全日本鍼灸学会・和漢医薬学会若手研究者の会 合同企画）」

3) 学生部会を立ち上げ、以下の活動をサポートした。

① 第75回日本東洋医学会学術総会（2025/6/6～6/8：東京）

学生部会企画

「第6回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム」

「漢方ロールプレイ」

5. 医師国家試験への漢方に関する問題の採用を目標とする活動。

医師国家試験に関する要望書を厚生労働省及び文部科学省に提出した。

[3] 鍼灸学術委員会（担当理事：山岡傳一郎、副担当理事：高山真、委員長：鈴木雅雄）

1. 2024年6月2日、2025年3月10日の計2回委員会を開催した。

2. 2025年東京大会に向けた取り組み。

東洋医学会で初めて大会テーマに鍼灸という文言が入ったため、鍼灸の演題に関して調整をした。全日本鍼灸学会とのジョイント企画などは山口智委員（学術教育員会）が行っており、本委員会では以下の2演題のプログラムを企画した。

① 脳科学から鍼灸を再検討する

② 統合医療分野における臨床研究者の育成方法を考える

3. 明堂経を基にした経穴の穴位主治症に関して、成果を東京大会において、全日本鍼灸学会とのジョイントプログラムにおいて、以下の成果発表を行う予定である。

「お灸の効果と機序について」

4. 鍼灸治療に関するe-learningの構築について

伊藤委員より以前作成された鍼灸e-learning動画をJSOMで公開する件に関して、神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）に使用許可を取得している。

使用に関しては、KISTECの著作物利用規約があるため、現在公開方法について検討を行っている。

学会本部との相談の上、2025年に公開方法について決定していく。

5. 漢方薬—鍼灸エビデンスの構築

小川委員より2025年2月22日に広島で行われた第30回日本病院総合診療学会にて、JSOM鍼灸学術委員会との合同企画として、パネルディスカッション「漢方医学の統合は総合診療に役立つ～漢方薬と鍼灸～」を開催したことの成果報告を受けた。

[4] EBM委員会（担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明）

1. 2024年4月2日、8月2日、6月1日、7月2日、7月24日、10月31日、2025年3月18日の計7回委員会及びメール会議を行った。

2. 漢方治療エビデンスレポートEKAT2022 Appendix2023および2024を公開、英語版EKAT2019公開。今後は年4回の更新を実施する方針とし、ウェブサイトの更新については、管理業者ではなく委員会内で対応することを検討した。詳細は今後議論する予定とした。

3. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドラインKCPG2022 Appendix2023および2024を公開。KCPG2025以降、名称を「KCPG」に統一し、更新頻度を半年ごとに変更のうえ、更新日を明記することとした。

4. 「STORK」ウェブサイトへのアクセス数の増加と新規ユーザー獲得を目的とした、処方ごとのページ作成を準備、12月の公開を目指す。スペルミスや誤植を修正し、更新した。

5. 2024年学術総会EBM委員会企画シンポジウムのプロシーディングス論文をTKM誌に投稿し、2024年12月にオンライン発刊した（オープンアクセス論文）。また、2025年学術総会シンポジウム開催に向け、4名のシンポジストを選考・打診した。

6. EBM委員会ウェブサイトトップページの20周年記念論文へのリンク設定ほかメンテナンスを行った。

7. EBM委員会の活動周知のため、メルマガやSNSでの発信を検討。具体案については今

後議論することとした。

- 〔5〕用語及び病名分類委員会（担当理事：星野卓之、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦）
1. 2024年11月8日、2025年2月21日にメール審議にて計2回委員会を開催した。
  2. 国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）伝統医学章に関して、2027年末まで会員ホームページにて「和訳に関する意見聴取」を継続し、さらに全日本鍼灸学会雑誌への和訳案掲載に協力した。
  3. 2024年10月16日に、WHO-FIC (Family of International Classifications) 2024の伝統医学リファレンス・グループにオンライン参加した。
  4. 2024年5月31-6月1日開催の第74回日本東洋医学会学術総会にて用語及び病名分類委員会報告会にて4題の発表を行った。
  5. 2025年1月15日の2024年度日本医学会分科会用語委員会に津田委員長がオンライン出席した。
- 〔6〕漢方医学書籍編纂委員会（担当理事：及川哲郎、委員長：鈴木達彦、副委員長：鈴木朋子）
1. 2024年4月26日、6月28日、9月13日、11月15日、2025年2月14日の計5回委員会を開催した。
  2. 『漢方医学大全』の英訳版である『Complete Japanese Traditional (Kampo) Medicine』の編集作業を進めた。
  3. 『日英対照 漢方用語辞書 基本用語』追補改訂版の改訂作業を進めた。
- 〔7〕生薬原料委員会（担当理事：川添和義、副担当理事：伊藤美千穂、委員長：有田龍太郎）
1. 2024年5月27日、8月8日、2025年1月30日の計3回委員会を開催した。
    - 1) 山岡傳一郎委員より、愛媛県のオウバク栽培の状況が紹介された。
    - 2) 吉野鉄大委員より、日本漢方ソムリエ協会が主催する麻黄シンポジウムと黄柏シンポジウムについて紹介された。
  2. 国産生薬栽培地見学の実施について。
    - 1) 2024年10月12日(土)に有田委員長が秋田県美郷町の栽培地に状況確認に赴いた。
    - 2) 次年度以降の一般会員の参加の可否について検討を進めた。
  3. 第74回学術総会(大阪)における委員会企画について。
    - 1) 日本生薬学会とのジョイントシンポジウム「今、もう一度生薬を知る」を実施。
    - 2) 甘草をテーマに、生産、販売、基礎研究、薬学的臨床の観点から5名に講演してもらい、生薬の多面性について改めて認識してもらうことを目的とした。
    - 3) 2024年6月2日(日)14:40~16:40。  
座長：川添和義、有田龍太郎  
演者：芝野真喜男「生薬・甘草と麦門冬の国産生産への試み」  
栃本久美子「生薬の流通について」  
森永 紀「基礎研究」  
吉野鉄大「偽アルドステロン症発症のリスク因子」  
細野靖之「臨床(薬学)」
  4. 日本生薬学会第71年会におけるコラボ企画について。
    - 1) 2024年9月16日(月) 13:00~14:00「日本東洋医学会コラボセッション」
    - 2) 有田龍太郎委員長が「漢方薬の臨床から考える生薬の役割」というタイトルで講演した。
  5. 日本生薬学会関東支部への後援事業について。
    - 1) 日本生薬学会関東支部が主催する以下の事業について後援とした。
    - 2) 秋季植物観察会（2024年9月28日実施 城西大学坂戸キャンパス他）。
    - 3) 第39回生薬に関する懇談会（2024年10月5日実施 北里大学白金キャンパス）。
  6. 第75回学術総会（東京）における委員会企画について。

- 1) 2025年6月6日(金)から開催される学術総会において、以下のような企画を提案し、実施に向けて検討した。
- 2) 煎じ薬体験セミナー。
  - ① 栃本天海堂とウチダ和漢薬の協力を得て、1日2回の体験セミナーを実施。
- 3) 国産生薬展示。
  - ① 日本生薬学会とのコラボ企画として、国産生薬のパネル並びに現物の展示。
- 4) 生薬基礎講座。
  - ① 日本漢方ソムリエ協会の協力を得て、生薬に関する30分程度の講座を実施。
- 5) 生薬原料委員会企画シンポジウム。
  - ① 国産生薬に関するシンポジウムを3名の演者による講演と総合討論で実施。
7. その他。
  - 1) 森野旧薬園春季展覧会からの協力依頼。
    - ① 高浦佳代子委員より森野旧薬園春季展覧会への「協力」名義使用依頼が出され、検討の結果、理事会に諮った。
  - 2) 日本生薬学会第72年会におけるコラボ企画や日本生薬学会関東支部への後援を計画した。

#### 学術交流事業

- [1] 渉外委員会（担当理事：矢久保修嗣、副担当理事：伊藤美千穂、委員長：野上達也）
  1. 2024年7月3日、2025年1月26日の計2回委員会、協定書に関する打合せを4回開催した。
  2. 国内担当
    - 1) VARYTEX社との共同開発事業について推進した。KAMP0365worksを5月に製品化したことが報告され、今後の漢方ソフトウェア開発協力のためのアドバイザーの推薦についての検討が行われた。
    - 2) VARYTEX社との基本協定内容の確認を継続的に行った。
    - 3) ISOへの新規提案を渉外委員会で取り扱うこととなり、検討した。
    - 4) AMED活動（241k0310096h0002）の進捗状況が報告され、研究協力を行った。
  3. 国際担当
    - 1) 渉外委員会国際担当の活動内容は、これまで同様、大韓韓医学会（SKOM）との学術交流を継続していくこと、欧州ドイツに本部のあるISJKM(International Society for Japanese Kampo Medicine)との学術交流を促進すること、その他の関連学会に関する情報の周知、海外の伝統医学に関する情報収集を基本にすることを確認した。
    - 2) 第74回学術総会において2024年6月1日に「Traditional Medicine in the Digital Age（デジタル時代における伝統医学について）」のタイトルで日韓学術交流シンポジウムを開催した。大韓韓医学会関連より13名が参加され、会員同士の交流を図った。また、2024年9月に韓国済州島で開催されたInternational Council of Medical Acupuncture and Related Techniques(ICMART)で、同じテーマで韓日学術交流シンポジウムが開催され、三谷会長はじめ多数の日本人研究者が参加し交流を深めた。
    - 3) 2025年開催予定の第75回学術総会での日韓シンポジウムに向け、人参養栄湯に関する臨床および研究について、シンポジストの公募を行い、推挙した。

#### 学術総会・支部事業等

- [1] 第74回学術総会（会頭：三谷和男、準備委員長：山崎武俊）
  1. 2024年5月31日（金）、6月1日（土）、2日（日）の3日間に亘り、三谷和男会頭のもと、大阪国際会議場にて開催した。会員・非会員・招待者の参加者は3,476名でした。
- [2] 支部事業

1. 全国8つの支部において支部総会及び都道府県部会（学術講演会）を開催した。

#### 認定事業

- 〔1〕 専門医制度委員会（担当理事：藤本誠、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：栗山一道）
  1. 2024年4月13日、7月7日、8月9日、10月26日、2025年1月25日、3月16日の計6回委員会及びメール会議を開催した。
  2. 2024年度専門医試験を11月24日に行い、57名が受験し、45名を合格とした。
  3. 2024年度認定医試験を11月24日に行い、6名が受験し5名を合格とした。
  4. 漢方専門医更新対象者231名の内、更新要件を満たす198名の更新を認可した。
  5. 認定医更新対象者27名の内、更新要件を満たす23名の更新を認可した。
  6. 研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。
  7. 各地区において教育事業を開催した。
  8. 第74回学術総会において指導医講習会、専攻医のための説明会、医療倫理・医療安全講習会を実施した。
  9. eラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。
  10. 専門医通信を2回発行した。
  11. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
  12. 一般社団法人日本専門医機構へのサブスペシャリティ領域としての申請に向けて、研修プログラムを整備して研修システムの充実を図り、研修施設の整備・充実を図った。
  13. 専攻医登録のシステム化を進めた。
  14. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。
  15. 専門医試験受験の際に提出する症例一覧および臨床報告の様式に指導医の自署欄を追加した。

#### 管理事業

- 〔1〕 運営委員会（企画担当理事：小菅孝明、財務担当理事：山崎武俊、IT部門担当理事：福岡正平、委員長：山田和男）
  1. 2024年4月22日、7月1日、8月19日、11月18日、2025年2月10日、3月17日の計6回委員会を開催した。
  2. 2025年度予算を纏め、理事会に上程した。
  3. 2024年度決算を纏める作業を行った。
  4. 2024年度補正予算案を纏め、理事会に上程した。
  5. 第76回定時社員総会に推挙する名誉会員について審議し、理事会に上程した。
  6. 第75回定時社員総会の開催について審議し、理事会に上程した。
  7. 定款の一部改定案（①支部・都道府県部会会計マニュアル、②代議員選挙：選挙区の統合、会員の所属選挙区、立候補届出書、③入会金・会費免除者の対象）について審議し、理事会に上程した。
  8. 入会金及び会費に関する細則、入会審査基準、入会審査基準運用マニュアルの一部改定案について審議し、理事会に上程した。
  9. 激甚災害指定による会費免除について審議し、理事会に上程した。
  10. メールマガジン運用管理規程の一部改定案について審議し、理事会に上程した。
  11. 会員増加に向けた対策について検討した。
  12. manaableの継続利用について審議し、理事会に上程した。
  13. 特別ワーキンググループ（臨床研究検討委員会）を本委員会内に設置することを理事会に上程し、運営協力を行った。
  14. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
  15. 理事会からの諮問事項について検討した。

- [2] 広報委員会（担当理事兼委員長：田原英一）
1. 2024年10月1日、11月10日、2025年2月19日の計3回委員会およびメール会議を開催した。
  2. Webサイトリニューアル業者のプレゼンテーションを受け、各社の提案内容を検討して、業者の選考を行った。デザイン内容や費用面を考慮して第一候補業者を理事会へ上程した。
  3. 本学会ホームページへのバナー広告掲載申請に関して審査を行い、掲載の承認を理事会に提案した。
  4. メールマガジンの配信について検討し、実施した。
  5. 学会運営のSNS利用に関するルール作りに関して検討を行った。
- [3] 倫理委員会（担当理事兼委員長：吉田麻美）
1. 2024年6月27日、8月23日、2025年2月21日の計3回委員会を開催した。
  2. 日本医学会連合の倫理手続きチェックリスト、他学会のカテゴリー分類表を基に、本学会版のチェックリスト、カテゴリー分類表及び、Q&Aを作成し、ホームページに、「日本東洋医学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針（2024年9月1日）」として掲載した。
  3. 第75回日本東洋医学会学術総会の演題募集で使用し、実際の演題募集での状況について報告を受け、引き続き必要に応じて適切に更新していくことを確認した。
- [4] 利益相反（COI）委員会（担当理事兼委員長：佐野敬夫）
1. 委員会は、適時、開催した。
  2. 様式2にしたがって、役員などの利益相反（COI）自己申告書（就任時の前年から1年ごとに過去3年間申告すること）を確認した。
- [5] コンプライアンス委員会（担当理事兼委員長：並木隆雄）
1. 委員会は、開催されなかった。
  2. 2025年2月15日にコンプライアンス委員会担当理事宛てに、1件の審議依頼がなされた。その後、本件に対して、予備検討で顧問弁護士と面会し、審議の可否ならびに今後の方針を話し合った。年度末のため、3月の理事会には中間報告の上、2025年度年初めに、方針を理事会に報告することとした。
- [6] 医療安全委員会（担当理事：鍋島茂樹、委員長：地野充時）
1. 2024年6月1日に委員会を開催した。
  2. 副作用情報を学会HPのWebサイトで公開した。
- [7] 政策提言委員会（担当理事兼委員長：玉嶋貞宏、副担当理事：金倉洋一）
1. 委員会は、開催されなかった。
  2. その他の活動も行われなかった。
- [8] JLOM委員会（担当理事兼委員長：牧野利明、副担当理事：並木隆雄、副委員長：松本毅）
1. JLOM内の理事会として、経済産業省、厚生労働省、三菱総合研究所のアドバイザーも交えたISO/TC249国内審議団体会議を、計5回開催した。2024年度日本医療研究開発機構「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業として、伝統医学領域でのISO国際標準のデータベースを開発し、これまでに公開された国際標準のコメント付き構造化抄録を作成、<https://isotm-mpdb.nibiohn.go.jp/index.php> に公開した。
  2. 5月31日に開催された第74回日本東洋医学会学術総会では、JLOM委員会主催シンポジウムを開催し、活動を会員に報告した。
- [9] 定期刊行物（担当理事：砂川正隆）
1. 会報を2024年4月、7月、10月、2025年1月の年4回発行した。

## 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。